

2017 年度

ボートレースチャリティ基金協力報告書



ガーナのハンセン病回復者の家屋建築中

ボートレースチャリティ基金委員会

1. 選手会口

1-1 支援概要

選手会口は、選手会所属のポートルレーサーの皆さまから直接頂いたご寄付で、ハンセン病患者・回復者及びその子どもたちに対する教育支援に使用する目的で4度にわたりご寄付を賜りました。

ハンセン病患者・回復者及びその子どもたちの中には、自分や家族がハンセン病に罹ったために退学させられたり、いじめにあったり、収入がないために通学費用を出せなくて中退したりする子どもがいます。教育を受けられなかった子どもたちは大きくなっても、定職に付くことが難しかったり、物乞い以外に収入の道が得られなかったりなど、自立が困難な状況にあり、ハンセン病回復者の家族や定着村には、貧困、物乞い、無教育というレッテルが貼られ、数世代にわたって貧困と隔離の輪が断ち切れません。この貧困と隔離の輪を断ち切るために、患者・回復者ならびにその子女が一定の教育を受けることを目的に各国への教育支援事業が2003年度より開始されました。

2017年度までの15年間でインド・ミャンマー・ネパール・中国・フィリピン・インドネシア・ベトナムの7カ国において、延べ5,525人が小中学校、高校、大学、専門学校に通うことが出来ました。2014年度以降の第4次支援は特に高等教育への支援を行い、将来的に職業に結びつく専門学校や大学等に進みたい多くの学生たちにそれぞれ数年にわたる支援が行われました。実際に卒業後は、専門的な職業に就けたという報告が数多くきています。

1-2 支援学生数と支援額 2003-2017年度

	第1次 (2003- 2009)	第2次 (2009- 2013)	第3次 (2010- 2014)	第4次 (2014- 2017)	計	支援額
インド	1,078人	1,124人	376人		2,578人	¥19,413,808
ミャンマー	777人				777人	¥2,739,200
中国	489人		479人		968人	¥5,609,876
ネパール	450人			50人	500人	¥6,197,187
フィリピン		387人	76人	84人	547人	¥10,222,620
インドネシア		31人		54人	85人	¥5,580,665
ベトナム			10人	60人	70人	¥3,412,727
合計	2,794人	1,542人	941人	248人	5,525人	¥53,176,083

1-3 選手会口収支

承認年-使途	ご寄付額 (A)	支出額 (B)	残額 (A-B)
2002年 第1次教育支援	¥15,310,000	¥14,952,585	¥357,415
2008年 第2次教育支援	¥12,585,965	¥11,947,129	¥638,836
2010年 第3次教育支援	¥11,908,005	¥10,663,364	¥1,244,641
2014年 第4次教育支援	¥15,000,000	¥15,613,005	¥-613,005
合計	¥54,803,970	¥53,176,083	¥1,627,887

1-4 2017年度 支援詳細

1-4-1 インドネシア

東ジャワ州、東ヌサ・トゥンガラ州、南スラウェシ州の大学生4名、専門学校生2名、看護学生2名、合計8名の回復者とその子女への高等教育を支援しました。

第4次教育支援	2014年1月承認
支援実施年度	2014-2017
2017年度支援額	¥733,158

1-4-2 ベトナム

4つのハンセン病定着村に住む回復者の子女15人に対する高等教育支援（経営学、会計学、薬学、情報管理、旅行学など）を行いました。

第4次教育支援	2014年10月承認
支援実施予定年度	2014-2017
2017年度支援額	¥742,385

1-4-3 ネパール

2016年7月から引き続きコミュニティ医療補助師養成コース3名、補助看護助産師養成コース2名、医療研究技術者養成コース5名の合計10名のハンセン病回復者及びその子女たちに対して2017年12月までの18カ月のコースが終了するまで支援しました。

第4次教育支援	2014年10月承認
支援実施予定年度	2014-2017
2017年度支援額	¥0 (2016年度に2年分併せて送金)

1-5 事例 教育支援受益者の声

1-5-1 事例① ベトナム : Nguyen Thi Hong Hoa さん



ベトナムのホンホアさんは、ハンセン病回復者村出身です。

日本ポートレーサー奨学金によって、4年間看護学を勉強し2018年夏に卒業しました。彼女はこの4年間で沢山の事を学びました。多くの時間は病院での実習で、大変ではあるけれども、実際の看護師のようにタスクを与えられて病院スタッフのサポートを受け、喜びを感じながら働きました。

さらに将来のために英会話のコースも受講し、英語を使った社会活動にも参加しました。最終試験では、支えてくれている方々や家族のためにも良い成績を修め、より良い仕事に就けるように、前年から頑張って勉強しました。彼女は奨学金を頂いたおかげで看護学を学ぶことが出来て、心から感謝しています。

1-5-2 事例② ネパール : Phul Kumari Majhi さん



ネパールのマジさんは22歳です。

サラヒ郡に住んでいて、父親はハンセン病回復者です。貧困のために諦めていたコミュニティ医療補助師(CMA)養成コースを日本ポートレーサー奨学金によって受講でき、好成績で修了し、夢のCMAになることが出来ました。現在はバルディバス郡にある市立病院にて1か月Nrs8000(約8000円)の給与を得ています。家族を含めて彼女の住む地域の人々は、彼女が夢をかなえられたことを大変喜んで

ています。人々は彼女を尊敬の目で見られるようになり、ハンセン病回復者の子どもがCMAを勉強できたのは予期せぬことだったといいます。彼女自身も家族に働いたお金を直接渡すことができるようになったことを大変名誉に思っています。彼女はさらに勉強をして多くの知識を身に付けるためにこれから働いたお金を少しずつ貯めていこうと思っているようです。このように人生を大きく変えてくれた日本ポートレーサー奨学金に心から感謝をしています。

2.チャリティオークション他口

2-1 支援概要

チャリティオークション他口は、ボートレーサーの選手の方々がご自身のグッズをご提供くださり、オークション入札によりファンの方々が落札された収益金（下記、チャリティオークション）と各レースの優勝賞金から選手の方々がご芳志くださったものや、篤志家の方々からのご寄付（下記、選手会扱）から成り立っています。このチャリティオークション他口のご寄付は、各国のハンセン病回復者やその家族のために、生活環境改善や経済自立支援、そしてハンセン病対策や災害支援などの様々な支援に活用しています。

2-2 収入状況

年度	チャリティオークション他口		
	チャリティオークション	<オークション以外> 冠レース・選手会扱・篤志家	合計
2001	¥4,208,626		¥4,208,626
2002	¥8,515,071	¥31,000	¥8,546,071
2003	¥5,061,644	¥4,455,250	¥9,516,894
2004	¥2,610,740	¥3,084,000	¥5,694,740
2005	¥4,227,306	¥1,658,495	¥5,885,801
2006	¥3,367,947	¥3,957,578	¥7,325,525
2007	¥3,232,227	¥4,554,838	¥7,787,065
2008	¥3,208,877	¥4,254,410	¥7,463,287
2009	¥1,781,454	¥2,459,735	¥4,241,189
2010	¥3,109,270	¥2,643,816	¥5,753,086
2011	¥2,212,188	¥666,646	¥2,878,834
2012	¥2,340,193	¥21,163,956	¥23,504,149
2013	¥2,172,490	¥392,458	¥2,564,948
2014	¥2,351,211	¥177,242	¥2,528,453
2015	¥2,526,979	¥1,972,600	¥4,499,579
2016	¥2,293,860	¥1,845,763	¥4,109,623
2017	¥3,216,410	¥1,601,000	¥4,817,410
2018 (4月～9月)	¥1,708,833	¥636,000	¥2,344,833
総計	¥58,115,326	¥55,554,787	¥113,670,113

2-3 予算と支出状況

承認委員会 (委員会実施年)	活動実施年度	ご寄付額	承認額 (予算)	支出額	支出予定額	残額	繰り越し	繰り越し後 残高累計
第1期 (2002)	2002~2003		¥10,000,000	¥10,000,000	-	¥0	-	¥0
第2期 (2004)	2004~2010		¥16,000,000	¥14,688,352	-	¥1,311,648	-	¥1,311,648
第3期 (2006)	2006~2010		¥10,000,000	¥8,829,808	-	¥1,170,192	-	¥2,481,840
第4期 (2008)	2008~2013		¥16,000,000	¥14,288,688	-	¥1,711,312	¥2,000,000	¥2,193,152
第5期 (2010)	2010~2013		¥14,000,000	¥12,436,871	-	¥1,563,129	¥2,000,000	¥1,756,281
第6期 (2012)	2013~2015		¥30,000,000	¥27,002,616	-	¥2,997,384	¥4,500,000	¥253,665
第7期 (2014)	2015~2016		¥8,500,000	¥7,431,194	-	¥1,068,806	¥715,041	¥607,430
第8期 (2016)	2017		¥9,000,000	¥8,740,896		¥259,104	¥866,534	¥0
2017年10月	2018		¥5,261,638	¥4,574,442	¥170,000	¥517,196		
合計		¥112,914,609	-	¥107,992,867	¥170,000		-	-

2-4 2017年度 支援詳細 支援総額 ¥8,740,896

2017年度は、チャリティオークション他口からインドとインドネシアのワークキャンプならびにガーナの家屋建築、フィリピンの救急船用小型ボート配備に対する支援を行いました。

2-4-1 インド

第8期委員会 (2016年10月承認)	
支援詳細 と結果	<p>学生などの青年がハンセン病定着村に数週間暮らしながら（キャンプ）、村の清掃活動や道路整備などの環境改善活動（ワーク）を行うことをワークキャンプと呼んでいます。インドではウェストベンガル州のビシュナプールとマニプールの二つのコロニーにおいて、インドワークキャンプ団体のNPO法人「わびねす」により、各2回のワークキャンプ（屋根の張り替え・簡易修理、道路の埋め立て、ごみ集積所整備、など）が実施されました。</p> <p>ビシュナプールでは2回のワークキャンプで16軒の屋根の張り替えと7軒の簡易修理が完了し、コロニー住居者のニーズに応えられました。余った資材でコロニーの人々は各家屋の細かい修繕を自分たちで行っていたことより、ほぼすべてのコロニー住居者（約150人）がこのキャンプの受益者となりました。ワーク終了後の聞き取り調査によると、コロニーの人々の満足度は非常に高いものであり、彼らの生活環境が大きく改善されたとのこと。このワークキャンプには9月と3月にそれぞれ7人、11人の日本人学生がキャンパーとして参加し、コロニーの人々と共にがれきの撤去や砂をふるうなどの作業を手伝いました。</p>

	<p>一方で、マニプールでは雨季に水没する道路の埋め立て作業とごみ集積所の中身の撤去作業を日本人学生（8月は6人、3月は7人）のキャンパーたちがコロニー内の人々を巻き込んで作業を行うことによりほぼ完了し、コロニーの住居者が安全で快適に暮らすことが出来るようになりました。特にコロニーのほぼ全ての住居者（約1000人）が普段利用しているこれまで水没していた道路が埋め立てられて、雨季でも雨水がたまらなくなったことについては、ワーク終了後の聞き取り調査によればキャンプのワークにコロニーの人々はかなり満足しているとのこと。</p>
支援額	¥448,000

←ビシュナプールコロニーにて



屋根の張り替え作業の様子



←マニプールコロニーにて
 様々な種類のごみに土や泥が混ざってあふれかえていた集積所の中身をすべて撤去して種類ごとに分別できるようにしました。



←マニプールコロニーにて
 雨季に水没する道路の埋め立て作業中
 コロニー内の多くの人が手伝いました。

2-4-2 インドネシア

第8期委員会（2016年10月承認）	
支援詳細 と結果	<p>インドネシアでは、ハンセン病回復者の多い東ジャワ州ンガゲット村にて、ワークキャンプ団体 Leprosy Care Community (LCC) が、2010年よりワークキャンプを実施しています。インドネシアでは、ハンセン病患者や回復者、その家族への偏見・差別が、未だに根強く、深刻な問題となっているため、ハンセン病定着村におけるワークキャンプ活動は、インフラ整備による生活環境の改善だけでなく、村の中と外の一般社会をつなぐ架け橋にもなっています。</p> <p>回復者の家族、特に子どもたちは、進学や就職などの理由により村を出た後に、その村には戻らないことが多くあります。そのため、村には高齢者のみが残り、村の発展が期待できないという状況が多くの定着村に共通してみられます。ンガゲット村も例外でなく、回復者の子どもたちは、村を「故郷」と考えず、都会へ出て働きたいという希望が多くありました。そこで、LCCは、村の住民と村の将来像を描くことから始めました。若者を中心とした集会を開き、清掃活動を行うと共に、村の中に湧いている温泉にも注目しました。温泉周辺的环境整備を行ったところ、村の外からの利用者が増えました。</p> <p>2017年度は、インドネシアの学生18人と日本人学生11人のキャンパーたちが村民たちと一緒に村の温泉がより多くの利用者を得られるように温泉へ続く道の舗装と更衣室の建設を行いました。その結果、ンガゲット村がハンセン病の定着村であることを気にせずに温泉を利用する人が多くなり、温泉の駐車料金などの支払いを通じて、村の収入が増え、村人は村の中でも働く機会を得られるようになりました。いま、若者たちは、温泉施設への注目を通して、村への「故郷」としての誇りが生まれ、自分たちの手で、村の将来をどうするか、考え始めています。今後のンガゲット村の発展が大きく期待されます。</p>
支援額	¥ 85,997



↑ 温泉へ続く道を建築中。



↑ 手すりもつけ、歩きやすくなりました。



↑ 更衣室建築中。



↑ 村の外からの利用者に好評な更衣室です。

2-4-3 ガーナ

第 8 期委員会 (2016 年 10 月承認)	
支援詳細 と結果	<p>ガーナでは 2003 年に IDEA ガーナが設立され、ハンセン病回復者やその家族の尊厳の回復や社会復帰を目指して活動を開始し、積極的に啓発活動を行っています。</p> <p>IDEA ガーナは偏見と差別が根強いとされる北部を中心に、ガーナ社会で非常に重要な役割を担うチーフの協力を得て、定着村とその周辺で啓発活動を行った結果、数年でガーナの偏見と差別の問題は急速な進展をみせました。そして、過去数十年にわたってハンセン病定着村で暮らしていた回復者約 800 人が帰郷を果たすことができました。</p> <p>しかし、定着村から故郷に戻りたいが、住居がないために戻れない状況である人が 9 人いました。ガーナではハンセン病は現在は外来での治療が可能であり、偏見や差別の問題もほぼ解決しています。ガーナのハンセン病問題は、この 9 人の帰郷でほぼ解決するものと言えます。</p> <p>よって、ガーナの啓発活動の終章、そして同国のハンセン病問題の最終解決のために、本チャリティオークション他口より 9 人の家屋建築を行い、帰郷を支援することに致しました。2017 年度は 5 名、2018 年度は 4 名の家屋建築を支援することとし、2017 年度は 5 名の家が建てられました。</p>
支援額	¥5,046,333



↑ 鍵が手渡された様子



↑ 煉瓦も手で積まれています。 ↑ 床のコンクリートを作っています。 ↑ 屋根を張っています。



↑ このような家が完成しました！！ ↑

2-4-4 フィリピン

第8期委員会（2016年10月承認）	
支援詳細	<p>1906年に開所され、1920年代には世界最大のハンセン病隔離施設となったクリオン療養所は、世界各地のハンセン病政策に多大な影響を与えました。クリオンは1995年には保健省直轄ハンセン病療養所から一般自治体となり、現在は、ハンセン病療養所のみならず、パラワン州北部唯一の総合病院があります。クリオン総合病院の管轄人口の大多数は小規模な島の住人であり、その多くは貧困層です。地理的・経済的理由から、島の住人達は必要な時に必要な治療を求めに通院することが難しく、住民の健康は危険にさらされていました。</p> <p>このため、2014年度にクリオン療養所ならびに総合病院の管理のもと、クリオン・コロンのリナパカン・ブスアングの4町が共同して救急船を維持する体制が確立され、本チャリティオークション他口の寄付金によって救急船配備の支援を行いました。2016年8月には正式に救急船はクリオン総合病院に移譲され、その後多くの救急患者の搬送を行っています。</p> <p>しかしながらクリオン一帯はサンゴ礁の遠浅の海が続き、また大多数の島には桟橋も船着き場もないことから、干潮時はもちろんのこと干潮時以外でも場所に依っては患者が待つ島まで救急船が近寄ることができない状況でした。このため、どの島でも、島のどの場所でも、患者が必要な医療にアクセスができるように、救急船に小型の補助ボートを配備することにしました。</p>
支援額	¥3,160,566



↑ 2016年8月に完成した救急船



↑ 遠浅の海の様子



↑小型ボートは2018年2月の最終送金後に4か月かけて中国でボートの船体が製造され、2018年9月にすべての備品も設置されました。これから選手会のロゴを付け、船舶登録をして、2018年11月に使用開始の予定です。スペックは下記のとおりです。

- ✚ 全長 Overall Length: 6.30 m (20'-08')
- ✚ 船幅 Beam: 2.20 m (07'-03")
- ✚ 平均ドラフト Average Draft: 0.38 m (01'-03")
- ✚ エンジン Recommended Engine: 90-200 HP OBM
- ✚ 収容人数 Capacity: 10 pax
- ✚ 船体重量 Approx. Hull Weight: 950 kg (2094 lbs)

2-5 事例 回復者支援

2-5-1 事例① 受益者の声 ガーナ：Ekua Ketsiwa さん



ガーナのエクアさんは、76 歳ですが 30 歳の時にハンセン病と診断され、その後お金がなくて家を建てられなかったので、40 年以上もハンセン病回復者キャンプに住んでいました。ポートルーサーの方々からのご支援によって、故郷のボソンドェ村で初めてのセメントレンガ建ての家が完成しました。村の全ての家は土でできているので、このような立派な家を造っていただいたおかげで、彼女はコミュニティで重要な人とみなされ、人々が尊敬してくれるようになりました。彼女はこのような家に住めて本当に幸せで、心よりポートルーサーの方々のご支援に感謝しています。

2-5-2 事例② 救急船活用状況 フィリピン

2016 年 8 月より運行が開始された救急船の 2018 年 1 月から 8 月までの使用状況は、下記の表で示されているとおりです。ブスアングとコロンを中心に多くの方々が救急船で搬送されました。主に産科と小児科、そして事故に伴う外傷による救急でした。救急船のメンテナンスは年に 2 回あり、定期的にパーツの取り替えや掃除が行われています。クリオン総合病院/療養所は、救急船のメンテナンスとクルーの給料のための特別予算を現在では確保しています。

この救急船は、島が多いフィリピンでは、地方・国レベルの医療機関が救急や災害対応を行うための好事例とされています。小型補助ボートが稼働すれば、更に多くの人々がより早く、安全に病院に運ばれるようになる見込みです。

2018 年	町				合計
	ブスアング	コロン	クリオン	リナバカン	
1 月	0	0	1	0	1
2 月	6	8	0	0	14
3 月	8	7	0	0	15
4 月	2	7	0	0	9
5 月	0	1	0	0	1
6 月*	0	0	0	0	0
7 月*	12	1	0	0	13
8 月	4	2	0	0	6
合計	32	26	1	0	59

* 6 月中旬から 7 月はメンテナンスにより運行なし

2-6 2018 年度チャリティオークション他口 事業実施状況

2018 年度は、2017 年度の委員会でご承認頂いた資金から、以下の支援を実施しています。

<2017 年 10 月委員会 承認 ハンセン病対策・尊厳回復緊急支援 (5,261,638 円) >

実施国	事業概要	予算
ガーナ	IDEA ガーナを通して、2017 年度は 5 軒の家屋建築が完了しました。引き続きこの団体を通じて 4 軒の家屋建築を行い、完了の報告を受けました。	¥4,000,000 (¥3,842,915)
インド	ウエストベンガル州ビシュナプール・マニプール・チャクドラ定着村の 3 か所において、NPO 法人わびねすによって、2018 年度もワークキャンプが実施されています。土壁・瓦屋根修繕、経済自立支援、マイクロファイナンス事業、道路舗装、家屋修繕などが行われています。	¥700,000
インドネシア	東ジャワ州ンガゲット村、サンバーグランガ村、中部ジャワ州ドノロジョ村の 3 か所において、これまで東ジャワ州でワークキャンプを実施していた Leprosy Care Community (LCC) が、インドネシア各地で活動する LCC グループをまとめる団体として JALAN インドネシアワークキャンプコーディネイトセンターと団体名称を変更して、ワークキャンプを引き続き実施しています。2018 年度は道路舗装工事、排水溝整備などを行っています。	¥200,000
合計支出予定額		¥4,900,000

以上